

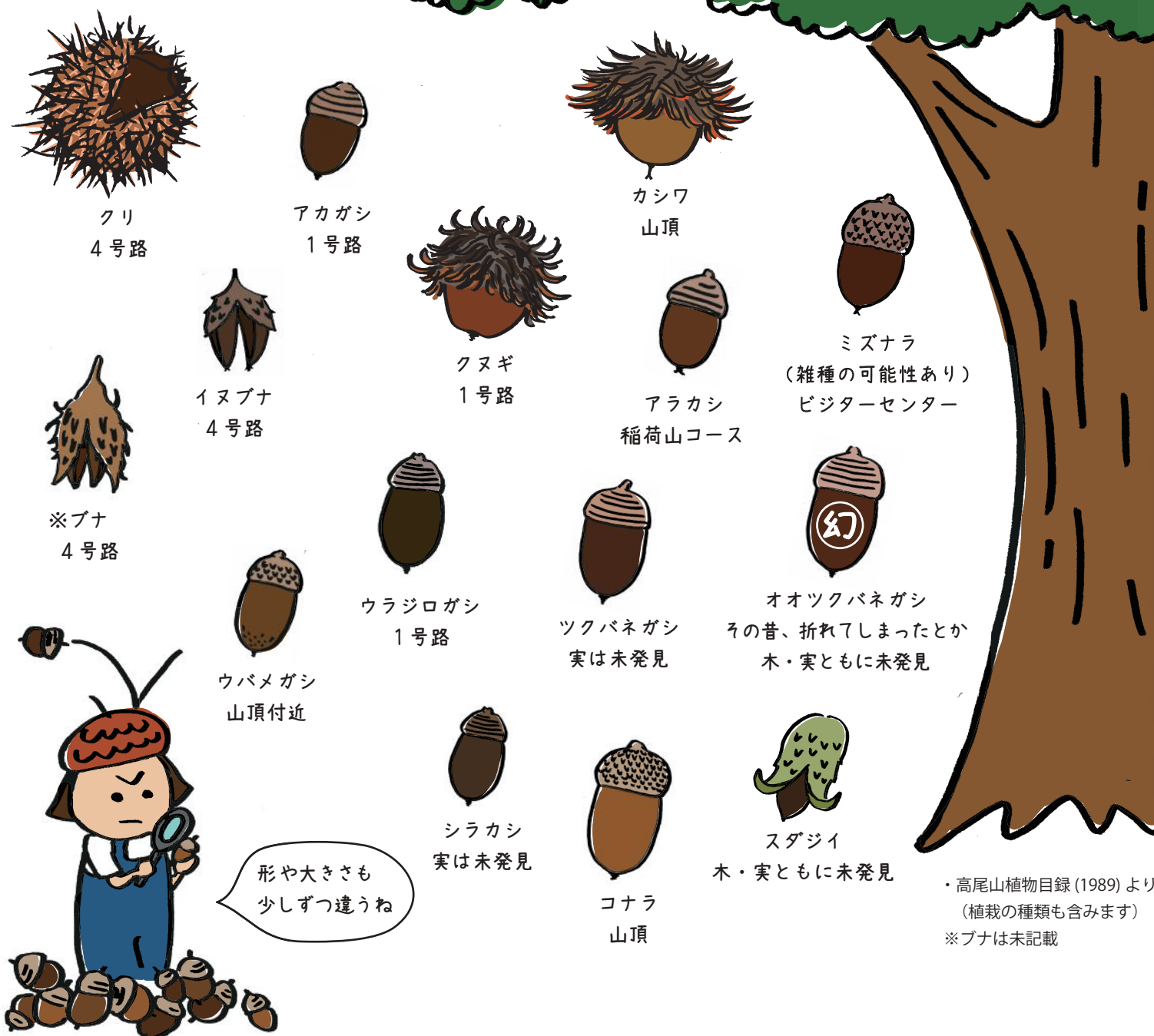
高尾山山頂から発信！

「のぶすま」とは
ムササビの古い呼び名です。

のぶすま

vol.45 季刊
2016年秋号

高尾山の ドングリ15種類



高尾山の歴史がもっと好きになる？

「高尾山のれきし」参考文献

～小仏峠物語第四話～

歴史がいっぱいの高尾山、調べれば調べるほど、その奥深さに惹きつけられます。今回の歴史コーナーを書くにあたって参考にさせて頂いた文献をご紹介します。もしかしたら、新しい発見に出会えるかも？

■美登毛濃嘉数 巻1. 池原香榊. 宮内省, 1882.

作中の和歌の作者の一人。もう一人は加部巖夫、二人とも宮内省の文学御用掛でした。文学の専門家が小仏峠の道々で歌を詠んでいたわけです。

■甲斐志料集成 第1. 甲斐志料刊行会編. 甲斐志料刊行会, 1932-1935.

『美登毛濃嘉数』の一部を記したものです。毛筆の原文を活字で表記しているため、読みやすくなっています。

■武蔵野歴史地理 第五冊八王子地方. 高橋源一郎. 有峰書店, 1972.

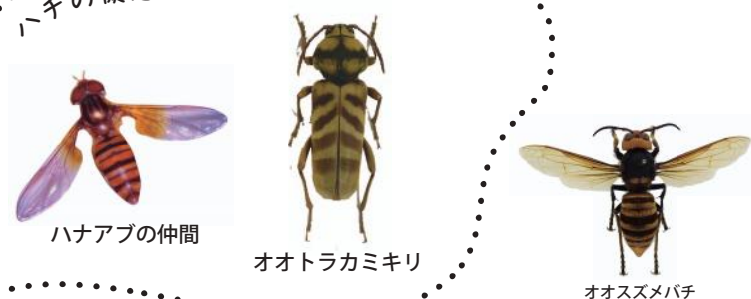
八王子の地理歴史が記されています。その一部に明治天皇巡幸の際、小仏峠の茶屋で小休止したことが書かれています。

■明治十三年御巡幸誌. 三村寿太郎編. 三村寿太郎, 1909.

■明治天皇御巡幸紀. 山梨県. 山梨県, 1940.

いずれも巡幸の詳細が記されています。随行者の名前を見ると、歴史に名のある人名や、それに縁ある人名が見受けられます。約400名もの人々がお伴したと言われています。

ハチの擬態をしている虫



明菜ちゃんとスズメバチ

解説員
こらむ vol.7

スズメバチの活動が最も活発になる秋。私たち解説員は、ガイドウォークを行う際など必ずスズメバチ注意のお話をします。ヒール役になりがちなスズメバチですが、私は山の中で独特の存在感を放つ彼らにとっても興味を引かれます。そんな彼らを意識していると、山の中にはスズメバチの身体の色や模様を真似る（擬態）昆虫がたくさんいることに気づきます。例えば、アブやガ、カミキリムシの仲間です。毒を持たない彼らは、強力な毒針を持つハチを真似ることで、鳥などの天敵から、捕食を免れていると考えられています。

アブは、たびたびビジターセンターに侵入しては（なるべく外に追い出すよう心がけております！）、来館者の方を「きや！ハチだ！」と驚かせるほどの、見事な擬態っぷり。他にも、カミキリムシの仲間のオオトラカミキリは、胸部にあたる部位が丸くなっており、スズメバチの頭そっくりなのです！もし、本当に意図して胸部の形までも似せているのなら、あっぱれです。上手く真似る彼らもスゴいのですが、やはりこれほど数多くの生きものたちに影響を与えるスズメバチは非常に興味深い存在に思えます。その様はまさに、「聖子ちゃんカット」ブームを巻き起こした松田聖子を彷彿とさせるカリスマ性！いや、雰囲気はどちらかというと、明菜ちゃん寄りでしょうか！。

私はそんなことを勝手に考えながら、この秋もまた、スズメバチを目で追いかけています。

〈解説員 梅田〉

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2016年秋号 vol.45

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2016年10月28日発行

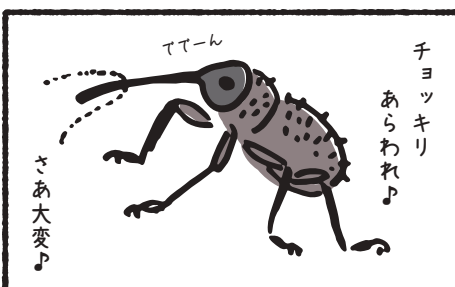
所在地：〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

URL：http://takaovc599.ec-net.jp（カラー版最新号を閲覧できます）

FUN FUN /

たかおさん

「どんぐり鎮魂歌（レクイエム）」の巻



「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

ドングリを見てみよう

ドングリは一般的にブナ科の堅果の総称です。



←殻斗（かくと）
未熟なドングリ
を守っています。

←堅果（けんか）

ドングリと合わせて葉っぱもみってみると、
種類を見分けるヒントになります。



見つからなかったドングリ

今回、ツクバネガシなど、木はあるのに実が発見できない種類もありました。植物に詳しい方に話を聞いたり、資料を調べたりしたところ、木の年齢や、密度、また年によって実のできる量に違いがあることを知りました。

ドングリの調査

奥多摩では、東京都レンジャーがドングリの実る量を調査しています。



30秒の間で見つけられる
ドングリ数をカウントします！

資料提供：東京都レンジャー H28 堅果類調査結果より（一部抜粋）
調査場所：西多摩地区（奥多摩、御岳、檜原）

高尾山はドングリ観察によい山！

ブナ科の植物は日本で23種類。高尾山には植えられた種類もありますが、今回は10種類のドングリを拾うことができました。まずは、4号路、稲荷山コース、1号路を歩いて探してみましょう。それぞれのコースで違ったドングリが見られることでしょう。よく見るとその形、特徴、年による違いも分かってくるかもしれません。さあ、ドングリさがしにかけましょう！

ドングリを食べる生きものたちのため、
観察したらなるべく元の場所へもどしましょう。



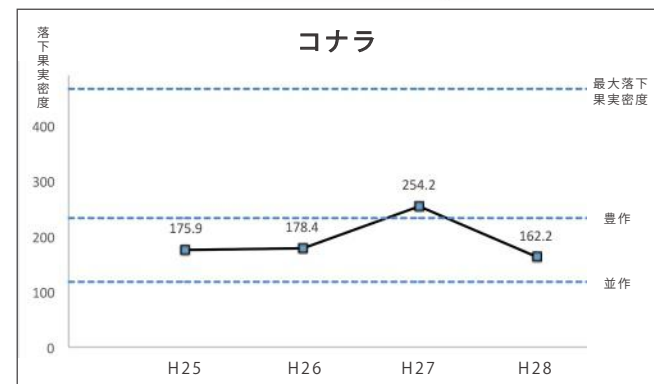
〈解説員 佐藤舞子〉

ドングリの穴

ドングリに針の穴ほどの小さな穴があけられていることがあります。それは、ハイイロチョッキリやシギゾウムシの仲間が産卵をした痕かもしれません。



卵からかえった幼虫は、ドングリの中身を食べ、さなぎになる準備ができるまで、中で過ごします。



人と歴史がつなぐ道

こほとけ とうけ

小仏峠物語 第四話

明治天皇の六大巡幸（1872～1885）、それは明治新日本の先行きの不透明感に一つの灯りをともしものでした。一行が小仏峠を越える様子には日本の風景を見る心の豊かさと国家安寧の思いが感じ取れます。

小仏峠には明治天皇の聖蹟が建てられています。明治天皇が全国を訪問した六大巡幸を記念したものとされています。

この頃、日本は不安と緊張に覆われていました。政府要人の対立や暗殺、市民の一揆、士族の反乱、自由民権運動など、明治維新という急激な大変革への不満が、全国各地で爆発していたのです。

このような国情、民心の安定や国家誇示のため、巡幸は行われました。

小仏峠へは、山梨・三重・京都の巡幸の際、明治13（1880）年6月17日に訪れました。

明治天皇は八王子を馬車で出発し、小仏宿で板輿に換えて峠に向かいました。峠の頂では茶店武蔵屋で輿のまま小休止し、その後小原・与瀬方面へ出立しました。

お伴だった池原香榊の随行記『美登毛濃嘉数』には、その時の自然の情景や登坂の苦労、国の繁栄を願う気持ち、和歌によって情感豊かに詠まれています。

小仏川ぞいを進んで
夏山の緑色添う谷川に
鳴くや蛙の声のさやけさ

木々の緑の深い川辺から聞こえてくる蛙の音が清々しい

小仏峠の急な登り坂のつらさに
坂しさに疲るる足の進まねば
立ちすくみにや 我もなりなん

くたびれて立ち往生してしまい、
峠の名前のように仏さまになつてしまいたいそうだ

峠の頂付近でウグイスの鳴き声を聞いて
今ぞ知る 深山の奥の鶯は
必ず春のものとしもなし
山のウグイスは夏にも鳴くんだなあ

峠の頂から富士山を望んで
久方の雲より上に降りおける
雪こそ富士の高嶺なりけれ
雲からつき出たあの白峰の山こそ富士山だ

千木良村の民衆の気持ちを代わりに詠んで
ゆくりなき 今日御幸の跡留めて
いく萬代とさらに契らむ

行幸を見て、平穏な暮らしがずっと続くといいたいと思った
日本はこの後、近代国家として発展を遂げていきます。

国の将来と自らの危険のかかった巡幸で
得た苦楽の感動、こうした素朴な体験も、もしかすると、それからの明治の世に繋がったのかも知れません。

※和歌は原文の一部を漢字表記しています。訳は解説員による意訳です。また、参考文献については、本誌の4ページ目でご紹介しております。



〈解説員 藤野〉

見られる時期…高尾山では、春と秋に成虫が目立ちますが、卵と幼虫も含めると一年中見ることが出来ます。長距離を移動するチョウとして知られ、沖縄から高尾山まで飛んできた例があります。

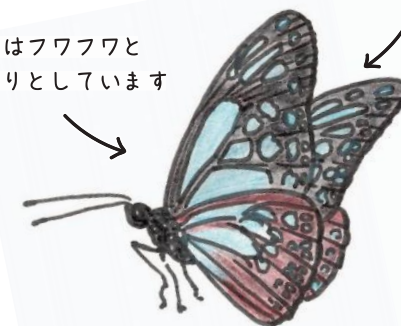
見られる場所…山内全域

※卵、幼虫はキジヨランという植物の葉で見られます。

〈解説員 村上〉

翅はあざぎ色と
ダークブラウンの組み合わせ

飛び方はフワフワと
ゆっくりとしています



アザミなどの花にとまっていることが多く、
じっくり観察できます

アサギマダラ
絶妙な色の
コンビネーション

解説員の

いちおし

vol.3

高尾山の
れきし
vol.7